

16th International Xenopus Conference (2016) 参加報告書

広域科学専攻 生命環境科学系 博士課程2年 渡邊朋子 (道上研究室)

今回、広域科学専攻の「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、ギリシャのクレタ島コリンバリで2016年8月28日から9月1日にかけて行われた16th International Xenopus Conferenceに参加し、研究成果を発表してきました。International Xenopus Conferenceは隔年で開催されている学術集会であり、アフリカツメガエルを実験材料として用いる世界中の研究者が参加し、最新の研究成果を発表し合い討議することを目的としています。今回はゲノムプロジェクトについての報告や、ヒトの疾患への関与が考えられている遺伝子群の探索、将来は頭部の感覚神経や色素細胞に分化する神経堤の形成メカニズムおよびその細胞群の遊走のメカニズムについての研究が多く見られました。また前後軸パターンニングへの関与が報告されているカノニカル Wnt シグナリングに関する研究発表も多く見受けられ、非常に活気のある議論がなされていました。本学会で私は「Functional analysis of novel placode gene *Fam46a* identified by new placode induction system under the control of BMP signaling」という演題でポスター発表を行いました。*Fam46a* 遺伝子はヒトにも存在しており、その変異は網膜色素変性症などの重大な疾患を引き起こすことが報告されています。本研究では初期発生における *Fam46a* の機能解析を行い、神経胚期における発現パターンや過剰発現あるいはノックダウンさせた際に起こるプラコードおよび神経堤領域形成の変化について報告を行いました。ポスター発表を通じて、同年代の学生から著名な研究者の方まで様々な人と議論を交わすことが出来、これまでに感じたことのない新たな視点を知ることが出来ました。

この国際学会への参加は、自身の研究分野の知見だけでなく、様々な分野の最先端の話題に接することのできる非常に貴重な機会であったと思います。また海外の有名な研究者の方への質問を通じ、研究に対する意欲や発想力を感じることが出来ました。技術や手法を始め、この経験から得たものを自身の研究活動に最大限生かし、今後はより一層研究に励みたいと考えます。



Orthodox Academy of Crete (学会会場)



Chania Bay (学会会場近くの海岸)